

この絵を描いたとき、一村は数え年*で8歳でした。
 *今の年の数え方だと6〜7歳です。
 あなたはこの絵を上手だと思いませんか？
 下手だと思いませんか？

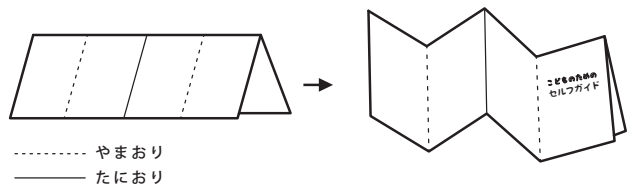


見たことありますか？
 お尻が光る、夏の虫ですね。
 い葉っぱにまとまっているのはホタルです。

図 虫

田中一村 新たなる全貌
 2010年8月21日|土|—9月26日|日|

こどものための
セルフガイド



展示室でのやくそく

- はしらないでね。
作品や他の人にぶつかってしまうよ。
- さわらないでね。
作品を大切にしよう。
- 食べたり飲んだりしないでね。
作品や建物についたらたいへん！
- おしゃべりは小さな声で。
静かに見たい人のために

まもってね アカショウビンのアカビン

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

この展示室を見渡すと、描き方の似た作品が多いですね。
 これらは中国で流行した描き方で、当時の日本でも大人気でした。
 一村は中国絵画を勉強し、とてもあざやかな色を使って自分のスタイルにしました。



意味があります。
 富貴花 (牡丹の花)：豊かさ
 灵芝 (不思議な力のあるキノコ)：長寿
 コウソウした石：めでたいこと
 (中国の岩山みたいだから)
 水仙：高貴さ (仙人の「仙」の字が入っているね)
 それぞれの入れ物
 とても古い中国の器の形や模様をまねています。

描かれているものすべてに「めでたい」「吉幸=吉祥」の意味があります。
富貴昌吉幸如意

いっそん ばしよ
一村がいた場所

栃木市
1908年
一村生まれる

千葉市
1938年から
20年間くらす

あまみおおしま
奄美大島
1958年
移り住む

ちば あまみ
千葉から奄美、どれくらい遠い？

正解：直線距離で約1,300km
 一村は夜行列車で鹿児島、鹿児島から船で奄美大島へ渡りました。



鳥が隠れているの分かるかな？
トツミみたいな様子をしているから、
トツミと呼ばれているよ。



この景色は一村が暮らした千葉県千葉市千葉寺町の自宅の裏山でしょう。一村はたくさん木や鳥を写生しています。描かれている季節はいつでしょうか。身の回りでも見られる草花を描いています。ですが、黄色や赤色のグラナーションが美しい一枚です。ひとつの画面にたくさんの題材がおさめられている、このような描き方はこの先の作品にもよくみられるようになります。注意して見ていくとくたさいね。



これまでの作品と違う点わかりますか？
絵の具をととても厚く塗っていることや、「立神」の周囲を明るく描いていることから、どのような効果を狙っているのでしょうか。あなたはどのように感じますか？

一村はずっと自分だけの描き方を探し続けていたんだね！



「立神」は一村が奄美で描いた他の作品にも登場するよ。



④海にそびえる岩：「立神」とおぼれ、奄美では海に向かって寄り食へるところはありません。パイナップルのようにも見え、甘い香りがあります。③アザノの美：緑色のものは若く、熟すと黄色くなります。



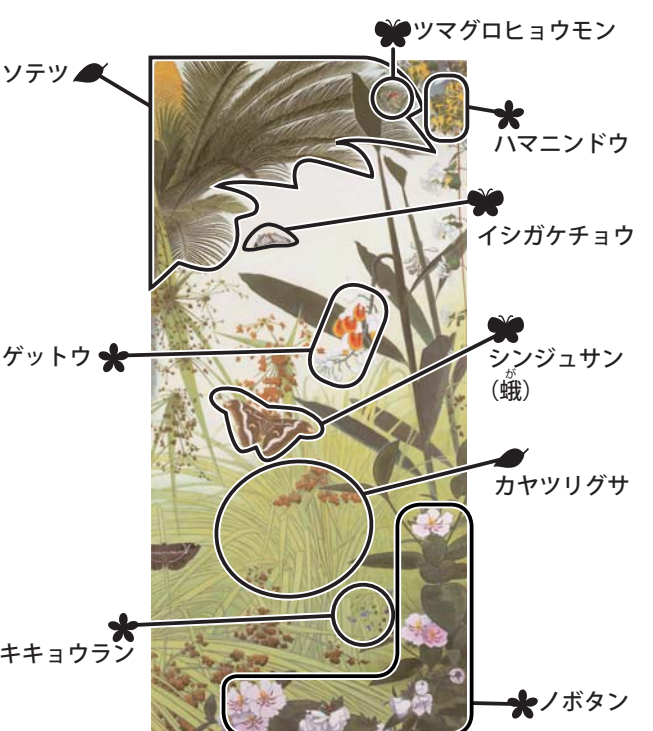
①キタチチヨウセンアサガオの花
②ソツツの美：赤いひとつとつこの種子が集まってでき
薬としても使われています。
タチヨモソツツも種子に毒がありますが、



奄美の海に蘇鐵とアザノ

草花に蝶と蛾

一村は奄美でも植物、鳥、虫などをたくさん写生しました。



これらの植物や蝶・蛾は千葉では見られない種類です。一村はこういった新しい題材を求めて奄美へわたったのかもしれない。